

お聞かせください

避難生活の中で感じていること、困っていること。除染や賠償、村の事業などについて聞いてみたいこと。ジャンルは問いません。皆さんの声をお聞かせください。



**大井美裕さん(草野)と長女の夕楓ちゃん**  
 地元企業で復興関連の仕事に携わっています。避難後に結婚し子どもが生まれました。村で育った自分と同じように子どもを自然の中で育てたいと思いますが、今はまだ村に戻るかどうか決められません。

「村の豊かな自然の中で子育てをしたかった」という声を、多くの親御さんから聞きます。「それがかなわない状況の中で今すぐ帰ることは難しい」という声も、その通りだと思います。  
 そうした現状を裏返せば、安心・安全な環境が整うならば帰村したいとお考えのご家族があるとも考えられます。  
 村は、認定こども園や小中学校を1か所に集めて教育環境を充実させる計画で、施設を集約する飯館中学校の除染を進めています。平成30年4月の村内再開を目標に施設を改修する他、教育内容についても一貫教育の利点を生かそうと、検討を進めているところです。  
 豊かな自然の恵みを生かして暮してきた村の環境を一步ずつ取り戻していけるよう、国の除染には最大限の努力を求め、村も目標に向かって努力を続けます。



**大内 益雄さん(佐須)**  
 長男が中学生の時から村の駅伝チームで走っています。震災後はその影響で二男・三男も参加するようになり練習に励んでいます。一つのことをやり通す姿に感心しながら、私はひたすら応援をするだけです。

大内さんのご家族からは、長男の龍太郎さんに続き、匡泰さんが平成24年から、凜太朗さんが平成25年から、村の駅伝チームに参加いただいています。全村避難の後も、棄権することなく、村が独自チームで大会出場を続けてこられたのは、選手・関係者の皆さんの知られざる努力のたまものです。また、その陰には、大内さんらご家族の精一杯のサポートがあったことでしょう。  
 今年も、11月20日開催の「ふくしま駅伝(市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会)」に向けて準備が進められています。飯館村のタスキを、過去から未来へとつないでいく選手たちの頑張りに、大きな声援を送りましょう。

いいたて 歳時記 その17

馬のせり市

かつて、9月10日から1週間は、「おせり」と呼ばれる馬のせり市の期間でした。  
 おせりは飯樋で行われていましたが、疫病が流行った時に草野で実施したのをきっかけに、飯樋と草野で、ウツテチガイ(交互)に開かれるようになりました。  
 おせりが近付くと、どこかの家でも馬の手入れに夢中でした。当日は、子ども達まで出掛けて行き、おせりの後で、冬物の衣類などを買ってもらいました。道の両脇には店がたくさん出て、おせりのように賑やかだったそうです。餅や煮豆など、食べ物も扱った店もありました。

当時、荷物を運ぶにも農作業をするにも欠かせなかった馬は、家族のように大切な存在でした。上飯樋では「おせりせん講」というならわしがあり、おせりの前に、家を離れた兄弟や子ども達を招いてご馳走しました。比曾ではおせりの後に馬頭観音のお祭りがありました。  
 また、大正末期までは、馬に飾りをつけ、一枚橋にある妙見様(水境妙見大神宮)にお参りに行くならわしもありました。白石では、道路で裸馬を走らせる競馬があったそうです。  
 おせりは時代と共に変化し、やがて牛のせり市へと変わっていきま



馬のせり市(おせり)のようす

参考：飯館村発行「飯館村史 第3巻 民俗」

**誕生おめでとう**

赤ちゃんの名前	親の氏名	行政区
細川 珠那ちゃん	慎也・智美	上飯樋
坂井 ららちゃん	凌・ハイジ	飯樋町
大井 裕稀くん	利裕・美紀	草野
佐藤 蓮ちゃん	淳・かおり	前田・八和木
泉 奏愛ちゃん	裕忠・かおり	長泥
高倉 陸くん	政知・亜由美	前田
遠藤 翔くん	翼・志織	前田・八和木

すくすくと元気に育ってね

**結婚おめでとう**

氏名	出身地
鹿山 真彦	深谷
丹野 紗文	福島市

いつまでもお幸せに

**おくやみ**

氏名	年齢	行政区
木幡 文和	62	白石
引地 定秋	80	伊丹沢
杉下 ヨシイ	84	長泥
渡邊 たつよ	56	前田・八和木
佐藤 美佐子	51	伊丹沢
佐藤 喜一	85	小宮
熊久保 マサ子	85	伊丹沢
高倉 長政	83	前田

ご冥福をお祈り申し上げます  
 (8月20日までに届け出のあったものを掲載)  
 ※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

**ひとのうごき**  
 (平成28年7月31日現在)

人口	今月(前月比)	7月1日~31日までの人口動態
男	3055人 (±0)	転入 6人
女	3123人 (-3)	転出 10人
計	6178人 (-3)	出生 8人
世帯数	1842戸 (±0)	死亡 7人

(住民基本台帳人口)

編集後記

今年の夏も暑い日々が続きました。いろいろな場所では、この季節ならではの夏祭りなどの行事が多くありました。子どもも大人も笑顔の姿を見ると、こちらも元気をもらえます。ある場所では「まだまだ大変なこともありますが、今日は難しいことは抜きにして、楽しみましょう」というあいさつ。肩の力がフッと軽くなるような、さわやかな風を感じました。いろいろあるのはお互いさま。だからこそ、みんな楽しんで気持ちが大切なんです。村は9月30日に60周年を迎えます。村では25日に記念行事を交流センターで開催します。いろんなことがあっても、これからもいろいろなことがあっても、村の還暦を祝いに足を運んでみてください。(木幡)